



録画配信の
2次元コード

菅野 淳

創造

ネット依存・ゲーム依存から 子どもたちを守る

◆ネット依存・ゲーム依存は健全な発達を阻害

Q ネット依存・ゲーム依存が及ぼす身体・精神への悪影響については、どんな見解をお持ちか

A 学校教育部長 睡眠状況の悪化や生活リズムの乱れ、視力低下・眼精疲労、脳・神経系への影響、ホルモンバランスの乱れ、精神的ストレスや不安・抑うつなど心身の健全な発達を阻害するさまざまな影響があるということを認識している。

◆授業等の教育活動のなかで指導

Q それらの悪影響に対して、市ではどういった啓発活動を行ってきたか

A 学校教育部長 ネットやゲームの長時間利用が睡眠不足や意欲の低下等、心身の成長にとってさまざまな影響を与える可能性があることを授業等の教育活動の中で繰り返し指導している。

◆まず第一に睡眠習慣の改善を

Q ネット依存の悪影響のなかで、睡眠不足による健康被害が大きく取りあげられるが、どのような啓発を行ってきたか。また、児童生徒全員の実態調査を行う必要があると思うが、見解を

A 学校教育部長 授業や保健指導を通じて、睡眠の大切さや生活リズムの意義を理解させることを重点的に取り組んでいる。調査に関しては全国や県の学力学習状況調査や新体力テストなどで実態の把握に努めていく。



録画配信の
2次元コード

広山 清志

公明党

「こどもまんなか社会」 背景と狭山市の取り組みは？

◆こどもまんなか応援センター宣言について

Q 宣言の概要は

A こども支援部長 「狭山市こども計画」の基本理念「みんなでつくる こどもの笑顔 かがやくまち さやま」のもと、こどもまんなか社会の実現に向けた気運の醸成を図るために、令和7年4月1日に宣言を行った。

◆狭山市こども計画について

Q 計画の策定の背景となる、国の子ども・子育て対策の動向は

A こども支援部長 少子化対策や待機児童対策を推進してきたが、出生数は減少傾向であり、少子化、人口減少に歯止めがかからない状況の中、少子高齢化の進行は、将来的な労働力の減少や地域社会の活力の低下を招くことが懸念され、社会全体で子どもを産み・育てやすい環境を整備することが急務となっている。このため、令和5年4月に「こども家庭庁」を設置し、全ての子ども・若者が将来にわたって幸せな状態で生活を送ることができる「こどもまんなか社会」の実現を目指している。

Q 計画の主な取り組みは

A こども支援部長 こどもまんなか社会の気運醸成、保育所や学童保育室の待機児童対策、基幹型保育所の機能の充実、利用者支援事業の推進、子どもの居場所づくりの支援、ヤングケアラーハウスへの支援および児童虐待防止の推進の6つの施策を重点的に取り組むこととしている。



「こどもまんなか社会」へ